

最大級の雪像を完成!



大雪像の上の部分に雪ブロックを積み上げる



雪ブロックが壊れない様手運びで上に運んでいく



雪と戦う、陸上自衛隊第2師団

第58回を数える旭川市の冬の祭典が2月7日から12日までの間開催された。雪像製作の協力隊長である第2特科連隊第5大隊長(穴澤一夫2陸佐)を中心に厳しい寒さと雪との戦いが約1か月繰り広げられ、市内の排雪を利用し骨組みを一切使用せず雪だけで作られる世界最大級の雪像を完成させた。

担任官(2特連隊長・前田尚男1陸佐)は、今回の協力への取り組みを「万事作戦を基準に」のもと築城工事開始から最良の状態を維持するまでの一連行動を作戦と捉え隊務の一体化を図った。製作期間中に山崎北部方面総監も会場を視察し隊員達を激励した。

最大級のメイン雪像「夢の動物園」(旭山動物園開園50周年を記念)を2特連が、これに接続する100メートル級の滑り台「ぶんぶんスライダー」を第2高射特科大隊および第2通信大隊が製作し、会場を一望するバルコニー雪像「飛んで元気を渡しに」(被災地に復興の願いを込める)を第2施設大隊が製作。第2後方支援連隊が雪像の総仕上げの化粧雪に使用する雪ブロックの製作・運搬を担当した。



雪の上での募集活動



オープニングセレモニー



雪像引渡式

また、旭川地方協力本部でも運営するフェイスブックに特別企画「北の職人達」をシリーズ化し製作に携わる隊員達の生の声を掲載。第1雪像隊副隊長の長尾3尉は「夢と元気と希望を与えられるように精一杯作っていますので楽しみにしてください!」とメッセージを語った。

製作期間中、各協力団体等からも激励と応援を受け、それぞれの部隊が酷寒と雨も混ざった暖気が交差し合う厳しい気象条件のなか来場者に「感動と歓喜」を提供した。

さらに、冬まつり期間中も早朝および一般開放が終了してからの夜間補修で最良の状態を維持した。期間中は、連日会場において各種イベントが催され、夜には花火やレーザーアートが披露され来場者を夢の世界に引き込みフィナーレを迎えた。



まずは土台作りから。足場を組み、雪像に綺麗な雪ブロックを積んでいく



早く元気になりますように

資料
第58回
旭川
冬まつり

①メイン雪像「夢の動物園」: 旭山動物園開園50周年を記念して作製(幅140m×奥行40m×高さ20m)

②バルコニー雪像「飛んで元気を渡しに」: (幅60m×奥行20m×高さ10m) 旭川市から全国にハートを持って元気を届けに行く旭川市キャラクター「あさっぴー」とそれを見送る「ゆっきりん」が描かれています。中央には、その架け橋として北海道文化遺産「旭橋」が、その左には熊本県のくまもんが描かれています。その横には「晚白袖」です。復興への願いが届き、早く元気になりますようにとメッセージが込められています。熊本地震派遣活動に参加した2師団の隊員もその願いを込めて作製しました。(バルコニー雪像は、大雪像の正面に位置し最高の眺めで開場を見れるために作られています。各段には、市民が参加して作られたミニ雪だるまが並んでいます。)